

令和6年度第2回南相馬市原町区地域協議会 会議録

① 日 時：令和6年5月22日（水）9時30分～10時50分

② 場 所：南相馬市役所 本庁舎3階 第1会議室

③ 委 員：

(委員数15名)		
出席委員13名		
会 長 平間 勝成	副会長 志賀 ゆかり	委 員 逢坂 晃
委 員 小林 五月	委 員 坂下 悦子	委 員 前田 一男
委 員 半谷 眞知子	委 員 田中 章広	委 員 中村 博之
委 員 鈴木 洋道	委 員 鈴木 香織	委 員 藤原 ヒロ子
委 員 長川 清隆		
欠席委員 2名		
委 員 鎌田 文代	委 員 貝塚 大暉	

④ 説明者：

企画課 課長	寺島 政博
企画課 係長	内城 弘志
企画課 主査	濱名 瞬
財政課 課長	森 修一
財政課 係長	村井 洋幸
財政課 主査	羽山 勇作

⑤ 事務局：

原町区地域振興課 課長	戸浪 誠
原町区地域振興課 課長補佐	舘野 幸一郎
原町区地域振興課 主査	遠藤 恵子

1 開会

○事務局

委員の過半数が出席のため、会議の成立を確認。

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 会議録署名人の指名

小林五月委員、坂下悦子委員を指名。

(2) 書記の指名

原町区地域振興課 遠藤主査を指名。

(3) 報告事項

- ① 南相馬市新市建設計画見直し（素案）に係るパブリックコメント手続の実施について
⇒企画課・財政課より、資料①に基づき説明。

○小林委員

概要資料に、令和5年度までの普通建設事業費が約634億円、令和7年度末で約709億円とありますが、令和6年度から令和7年度で差額の約75億円ということでしょうか。そうであれば、そのように記載したほうが分かりやすいと思います。

○企画課

令和6年度から令和7年度までをもって約75億円となりますので、より分かりやすいよう文言を修正いたします。

○半谷委員

旧3市町村の地域特性を生かして、とありますが、どのような地域特性でしょうか。

○企画課

新市建設計画5ページから11ページに、合併当時の地理的な状況や人口、土地利用など大きな概況などを記載しております。

具体的には、例えば旧原町市は人口規模や産業集積で相双地域の中心的な都市機能を有し、旧小高町は歴史・文化や双葉郡と隣接していること、旧鹿島町では、真野川漁港を有していることなどが挙げられます。

○田中委員

合併前の旧市町において、それぞれ独特の文化がありました。震災と原発事故後に、街のあり様だけでなく、そういった文化も踏まえたゾーニングを行うように計画を見直して行ってほしいと思います。

○企画課

新市建設計画については、財政計画も含め、合併後10年間でどういったまちづくりに取り組んでいくのかを定めた計画として、平成16年に策定しましたが、その後、震災と原発事故が発生しました。

このため、震災と原発事故からの復興に重点を置いた市復興総合計画を策定し、震災後の土地ゾーニング等については、当該計画に係る基本構想に基づき国土利用計画等で定めております。

今回、いただいたご意見については、今後、総合計画等の見直しの際に参考とさせていただきます。

○平間会長

将来の人口の見通しについて、これまでも人口が減少する見通しを立てていたが、何も手を打ってこなかったのでしょうか。

○企画課

市では、震災と原発事故を受け、災害復旧や住環境の整備など住民の帰還促進に向けた取組を最優先に進めるとともに、福島ロボットテストフィールドを最大限に活用するため、研究者や人材が集う周辺環境整備や復興工業団地等の造成による企業誘致等を進めてきました。

また、現在、帰還促進を進める一方、新たな雇用の場を創出するため、小高復興産業団地(フロンティアパーク)や飯崎産業団地の整備に加え、若い世代や小高区を中心とした移住定住施策の推進、市の少子化緊急対策「みらいづくり1.8プロジェクト」等による子育て支援や少子化対策に取り組んでおります。

○平間会長

65歳以上を高齢人口としているが、65歳以上でも働いている人はたくさんいます。国の統計方法で仕方ないのかもしれませんが、就業人口を増やしていくために、こういった点をどのように考えているのでしょうか。

○企画課

元気で働ける高齢者の方が増えております。また、高齢者の雇用だけでなく外国人なども含め、幅広く働く方の環境整備について、第三次総合計画にも目標として掲げ、今後、取り組んでまいります。

○平間会長

人口は減少していますが、世帯数は増加しています。高齢者の単身世帯が多くなっていると思います。そうすると空き家が増えていくこととなりますが、どのように捉えていますでしょうか。

○企画課

空き家の対策については、市が窓口になって空き家などを紹介する、空き地・空き家バンクやミライエ、移住者支援と組み合わせたリノベーションに対する補助制度などを実施しております。

一方で、更に増加していくことが予想される空き家については、引き続き大きな問題として、課題解決に取り組んでまいります。

○前田委員

新旧対照表が、新旧で年号が変わっているため比較する際に見づらいと思います。

○企画課

新旧対照表については、西暦を併記するなど、より比較しやすいように修正させていただきます。

○前田委員

合併当時に予定していた、合併特例債を活用する事業の一覧は出さないのでしょうか。

○企画課

次回、各地域協議会に諮問させていただくまでに整理した上で、参考資料として、お示しいたします。

○小林委員

財政計画で実質単年度収支は一定期間ほとんどマイナスとなっているが、どういった理由なのか。

○財政課

財政計画を作成する上で、歳入と歳出については、過去実績を基に、将来分を推計しています。

また、財源不足額については、財政調整基金等を活用して収支の均衡を図っています。

市の財政の健全度を示す一つの基準である、財政調整基金の残高が市の標準財政規模の10%を上回っていること、さらに、自治体の財政規模に対する借金の割合である実質公債費比率が10%未満となっていることから、健全性を保った計画となっています。

○鈴木（香）委員

しっかりと意見を出してもらえるような資料の作り方、パブリックコメント手続のやり方を意識して行ってほしいと思います。

○企画課

引き続き、より分かりやすい資料づくりに努めるとともに、パブリックコメント手続の在り方については全庁的な課題として、今後、検討してまいります。

4 その他

次回の開催日程について ⇒事務局より説明。

5 閉会

以上のとおり相違ありません。

会長

平間 勝成

会議録署名人

小林 五月

会議録署名人

坂下 悦子